

イエス様がよみがえられた日のことです。二人のお弟子さんたちが、エルサレムからエマオという村に向かって、何やら話しながら歩いていました。

「イエス様はどうとう十字架に架けられてしまった。もう何もかもおしまいだな」。

「女の人たちが朝早く、お墓に行ったとき、イエス様のおからだは見つからなかったそうだな」。

「三日目にはよみがえる、ってイエス様はおっしゃっていたけれど、あれほど苦しめられたイエス様が生き返るなんて、とても考えられないよ」。

「俺たちも、いつまでもエルサレムにいたら、イエス様と同じように捕まって殺されるかもしれない。さあ早く、エマオの村まで逃げよう」。

そんな話をしながら歩いていると、後ろの方から二人に近づいてきて話しかける人がいました。

「もしもし、あなたがたは今、何の話をしていたんですか。そんな暗い顔をして」。

「私たちは、ナザレのイエス様のことを話していたんです。あなたは何も知らないんですか。町の人たちはみんな、イエス様が殺されてしまったと、大騒ぎしているんですよ」。

「私たちのイエス様はねえ、行いにも言葉にも、とても力ある御方だったのですがねえ、祭司長や議員たちが十字架につけて殺してしまっただけなんです。でも、仲間の女性たちが朝早くお墓に行ってみると、イエス様のおからだが見つからなかったんです。そして、天使たちが現れて、『イエスは生きておられる』って言ったそうなんです。でもねえ、生きかえったイエス様を誰も見たわけでもないし、そんな話を聞いても、素直に信じられなくてねえ」。

二人は、声をかけてくれたその人が誰であるか、まったくわかりませんでした。その人は二人に、旧約聖書から解き明かして話をし始めました。その話を聞きながら、二人はなんだか胸がドキドキして、心が揺さぶられるような感じがしました。こんな思い、どこかで感じたことがある。そうだ、昔、イエス様が私たちに話をしてくださったとき、心が熱く燃え上がったあの時のようだ。

やがてみんなは、エマオの村に着きました。もう夕方になっていたのも、二人はその人に「一緒に泊まりませんか」と声を掛けました。もう少し、話を聞きたかったからです。

そして、夕ご飯をいっしょに食べようとしたとき、その人が賛美の祈りをしてからパンを割いてくださいました。

「ああ、この様子は見たことがある」。二人は同時に思いました。

「そうだ、イエス様だ。あの山の上で、たった5つのパンと二匹の魚だけで5千人がおなか一杯になったとき、イエス様は同じように、お祈りしてからパンを割いて分けてくださった。あのときのイエス様と同じだ。イエス様がよみがえられて、ここにおられるぞ」。

そこにいる人がイエス様だと分かったとたん、イエス様の姿はもうそこには見えなくなりました。イエス様がよみがえられて、いつも一緒にいてくださることがわかったので、二人にはもうイエス様が目の前に見えなくてもよくなったのです。

二人のお弟子さんたちは、お互いに話し合いました。

「私たちと一緒に歩いてくださったのは、イエス様だったんだ。だから、聖書の話をしてくださったとき、胸がドキドキしたんだ」。

「女の人たちが話していたとおり、やっぱりイエス様は本当によみがえったんだよ。」

「じゃあ、こうしちゃいられない。急いでエルサレムに帰らなくちゃ。」

そして二人は、もうすっかり日も暮れて暗くなった道を、逃げてきたエルサレムに向かって歩き出したのです。夜道は危険なので夜は村の外へ出かけたりしないのですが、二人はよみがえられたイエス様に出会ったうれしきで、いてもたってもいられずに、彼らが逃げ出してきたエルサレムに戻っていきました。よみがえったイエス様に出会った二人のお弟子さんたちは、彼らの心もよみがえったのでした。

今日の聖書の箇所には、二人の弟子たちが出てきます。彼らはエルサレムからエマオに向かって逃げていきます。かつて彼らは、イエス様に従って、仕事も捨て、家族とも別れてきました。それなのに、そのイエス様が十字架にかけられて死んでしまった。すべての希望を失った弟子たちは、イエス様からエルサレムにとどまっていなさいと言われていたにも関わらず、11キロほど離れたエマオをいう村に向かって歩いていました。エルサレムに残っていたら、自分たちも捕まって殺されてしまうかもしれない。そんな恐怖が彼らを襲い、エルサレムから逃げ出したのです。

そこへ、イエス様が近づいてきて、一緒に歩き始められます。弟子たちは、よみがえられたイエス様に気がつきませんでした。聖書には、二人の目が遮られていた、と記されています。イエス様が死んでしまったという失望と悲しみで、彼らの目と心は閉ざされていたのでした。

実はこの二人、イエス・キリストがよみがえられたことを知っていました。今日の聖書の箇所、22節から24節には、イエス様と会話した弟子たちの言葉が記されています。「ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした」。このように、二人はイエス様がよみがえられたという話を聞いていました。けれども、イエス様がよみがえったと頭でわかっているとしても、それは何の力にもなりません。では、イエス様が復活した証拠があれば、復活したことが証明されたなら、復活は力になるのでしょうか。いいえ、そうではありません。イエス様がよみがえった証拠があったとしても、復活したことが証明されたとしても、頭の中だけの知識では何の役にも立たないのです。ここに出てくる二人の弟子たちも、イエス様が復活されたことを聞いて知ってはいましたが、本当には信じていなかったのでしょうか。それは何の力にもなりません。

こうしてエルサレムからエマオに向かってとぼとぼ歩いていた二人の弟子たちに、イエス様が近づいてきて一緒に歩き始められます。イエス様は、その弟子たちを叱りませんでした。「あなたがたは、私が復活したことを信じられないのか。なぜ、エルサレムから逃げていくのか。エルサレムにとどまっていなさいと命じていたではないか。すぐにエルサレムへと引き換えしなさい」。イエス様は、そんなふうに弟子たちをしっかりとついたりせずに、逃げていく弟子たちの傍らを一緒に歩いて行かれたのです。

「何の話をしているのか」。イエス様は、二人に訊ねます。すると弟子たちは、こう言いました。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも

力のある預言者でした。それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります」。彼らは、イエス様に望みをかけていたと、過去形で語ります。弟子たちの失望と落胆の思いが、この言葉ににじみ出ているようです。弟子たちはこの後に、婦人たちがイエス様のお墓に行ったけれどご遺体を見つけられなかったこと、そして天使たちが現れて『イエスは生きておられる』と告げたことを語りますが、実際によみがえられたイエス様と出会っていない二人の弟子たちは、そのことを心から信じることができずにいました。そこでイエス様は、旧約聖書の中から、メシア、救世主のことについて解き明かしをされます。イエス様から解き明かしを受けていた時、弟子たちは心が燃やされていきます。かつて、イエス様に従ったあの頃の情熱が、再びよみがえってきたのです。

エマオの宿屋に着いた弟子たちは、イエス様に一緒に泊まってくださるように懇願し、共に食事をします。そして、賛美の祈りを唱えてパンを裂かれた様子を見て、弟子たちはその方がイエス様だと分かります。するととたんに、イエス様の姿は目に見えなくなりました。目に見えるイエス様の姿は、彼らには必要なくなりました。目に見えなくても一緒にいてくださる復活の主の存在に、気がついたからです。

二人の弟子たちは、復活の主イエス・キリストに出会って変えられます。「わたしたちの心は燃えていたではないか」。もう日が暮れてしまっているにもかかわらず、彼らが逃げ出してきた元の場所、危険と困難が待ち受けるエルサレムへと急ぎ戻っていくのです。そこはイエス様がよみがえられた場所でもありました。

復活の力。それは、復活の出来事を頭の中で知識として知っていることではありません。復活の力とは、復活の主と出会い、私たち自身が復活させられていくこと。すべての希望を失い、とぼとぼと逃げるようにエマオへと向かっていた二人の弟子たちが、復活の主イエス・キリストと出会い、心を燃やされて、元いたエルサレム、彼らが逃げしてきた場所、困難が待ち受ける場所に立ち帰り、そこで自分たちが抱えている問題に立ち向かっていく力を与えられること。それが、復活の力なのです。

私たちもよみがえられたイエス様との出会いを通して、私たち自身が復活させられていきたいと願います。

お祈りしましょう。